

SBC(Server Based Computing)

1. はじめに

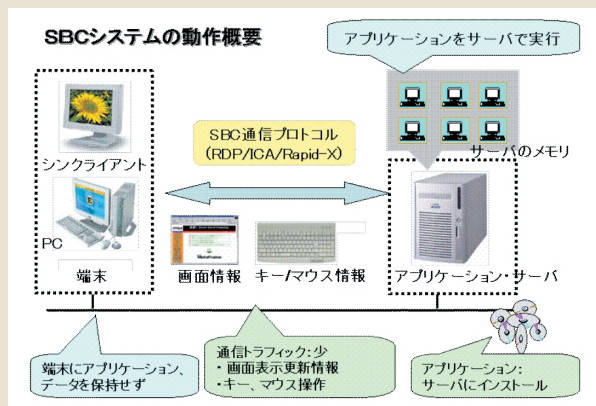
パソコンの普及は、我々の作業効率を上げ、生産性を高めてきました。また、ネットワークの普及は、新しいコミュニケーションツールを産み出し、我々に新しい世界をもたらしてくれました。

しかしその一方で、パソコンの普及は、ハードウェアやソフトウェアに対する管理業務負担の増大を招き、ネットワークの普及はウィルスや情報漏洩と言った新たなセキュリティ上の課題を生みだしました。

そこで、これらの問題を解決し、ユビキタス時代の利便性と安全性を同時に実現すると言われていた、SBC技術を紹介します。

2. SBC技術とは

SBC技術とは、ワープロソフト等の各パソコン端末で動作していたS/Wやデータを、アプリケーションサーバ上に集中し、端末からの入力に応じて、アプリケーションサーバ上のS/Wが実行した結果(画面)を、端末上に表示する技術です。



基本技術は、Microsoft社のサーバ向けOSで提供されており、さらに最近では、この技術を強化した様々なS/Wが販売されています。

サーバ上で動作するS/Wは、ワープロソフトやCAD等の市販S/Wに限りません。業務用に開発したサーバ・クライアントタイプの専用S/Wにも、ほぼ適用できます。莫大な開発費を投入してWeb化しなくても、各端末に分散していたS/Wの集約が図れ、維持管理が容易になる上に、画面も慣れ親しんだ専用S/Wの画面のままとなるため、運用面での移行もスムーズに行えます。

3. SBCのメリット

SBCを導入することによるメリットとしては、①端末にS/Wが無いことによる維持管理コストの低減、②通信が暗号化された画面データ等に限られる事による、通信負荷の軽減(約64kbps程度を確保できれば、一般的な業務S/Wは違和感なく動作)と盗聴防止、③サーバでのデータ一括管理による情報漏洩の防止、が挙げられます。これらのメリットにより、システム全体のTCOを下げつつ、セキュリティレベルを改善することが可能となります。

4. シンククライアント

SBCのメリットを高める装置として、シンククライアントがあります。シンククライアントとは、HDDやFDDやFANといった回転部品を装備しない、SBC用の端末です。

HDDやFDDを持たないため、まず、データ漏洩は起こりえませんし、端末の盗難によるデータの流出も有り得ません。さらに、HDDにファイルを作成するタイプのウィルスやワームに感染する恐れはありません。

また、回転部品が無いため、高信頼、省電力、静粛性の特性を有します。この特性から、研究機関、工場、屋外環境など、条件の厳しい環境での利用が増えています。

シンククライアントを用いれば、セキュリティ面の強化が図れると同時に、今までパソコンの導入が困難だった場所にも情報端末を導入することが可能になります。

5. まとめ

SBC技術は、個人情報等の情報漏洩やISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)が整備されるなどセキュリティに対する関心が高まっている今、低コストで従来の利便性を損ねず安全性を確保する技術として、注目が高まっています。

シンククライアントの種類も、耐衝撃タッチパネル型(90cmからの落下に耐える耐衝撃性、防滴Ⅱ型対応)、ICカードによる認証機能対応型(パスワード+物理カードキーによる二重チェック)等広がりを見せており、技術面、製品面から、SBC技術の世界は広がっています。